宇宿貝塚史跡公園

ー国指定史跡「宇宿貝塚」遺構展示公開施設

宇宿貝塚史跡公園は，昭和 61 年（1986）に国史跡に指定された「宇宿貝塚」の真上に整備された施設です。

この公園は，史跡の保存・活用を目的として，発掘調査で発見された縄文時代の竪穴住居跡や中世のお墓・溝などの遺構を，調査当時のそのままの状態で目に見えるように展示している施設です。

宇宿貝塚でタイムトリップした気分になり，昔の暮らしに想いをめぐらせてみてください。

□国指定史跡「宇宿貝塚」の概要

宇宿貝塚は，奄美大島東海岸に面している奄美市笠利町の宇宿集落にあります。このあたりには，南北に広がる海岸線に沿いながら新旧 2 列の海岸砂丘の発達が認められ，標高約 13m の旧砂丘に宇宿貝塚は所在しています。

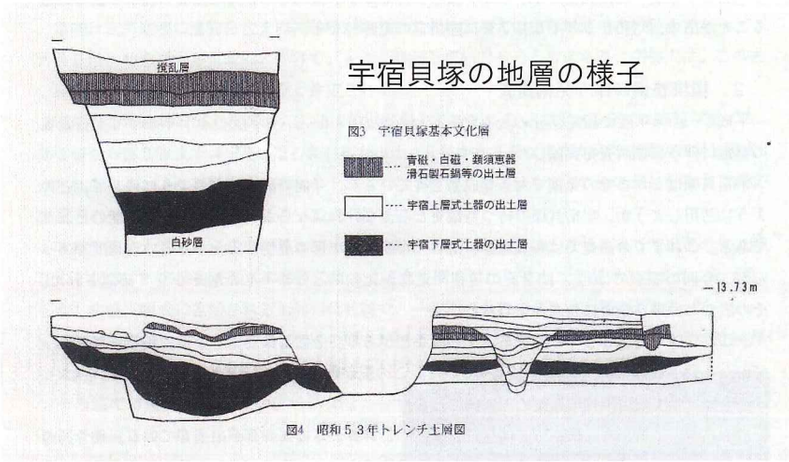
当該貝塚の調査研究史は古く，その発見は，昭和 8 年（1933）に人類学者・三宅宗悦氏（京都大学）が調査した時にさかのぼります。太平洋戦争敗戦後，米軍占領統治から奄美群島が日本復帰した直後の昭和 29 年（1954），昭和 30 年（1955）に河口貞徳氏等により発掘調査が行われ，奄美群島の先史時代を知る重要な手がかりとなる貝塚遺跡であることが確認されました。

宇宿貝塚は，遺跡として，中世の遺跡と縄文時代の遺跡の大きく 2 時期に分けられます。

中世の遺跡は，11 世紀後半～12 世紀前半（平安時代後半）の頃が中心で，墓地・溝などの遺構が発見されていて，カムィヤキ・滑石製石鍋・白磁・青磁などの遺物が出土しています。

縄文時代の遺跡は，縄文時代終末期から弥生時代初頭頃（約 3,000 年前）が中心で，竪穴住居跡が発見されているほか，文様のない土器をはじめ，石器・貝製品・骨角器などが出土しています。さらに，その下層から，縄文時代後期頃から縄文時代前期頃に至る複数時期の数千年間に及ぶ土器（文様の有る土器）や石器などが出土しています。

昭和 61 年（1986），奄美群島初の国指定史跡として指定を受け，保存・活用・公開を目的に史跡公園として整備されています。

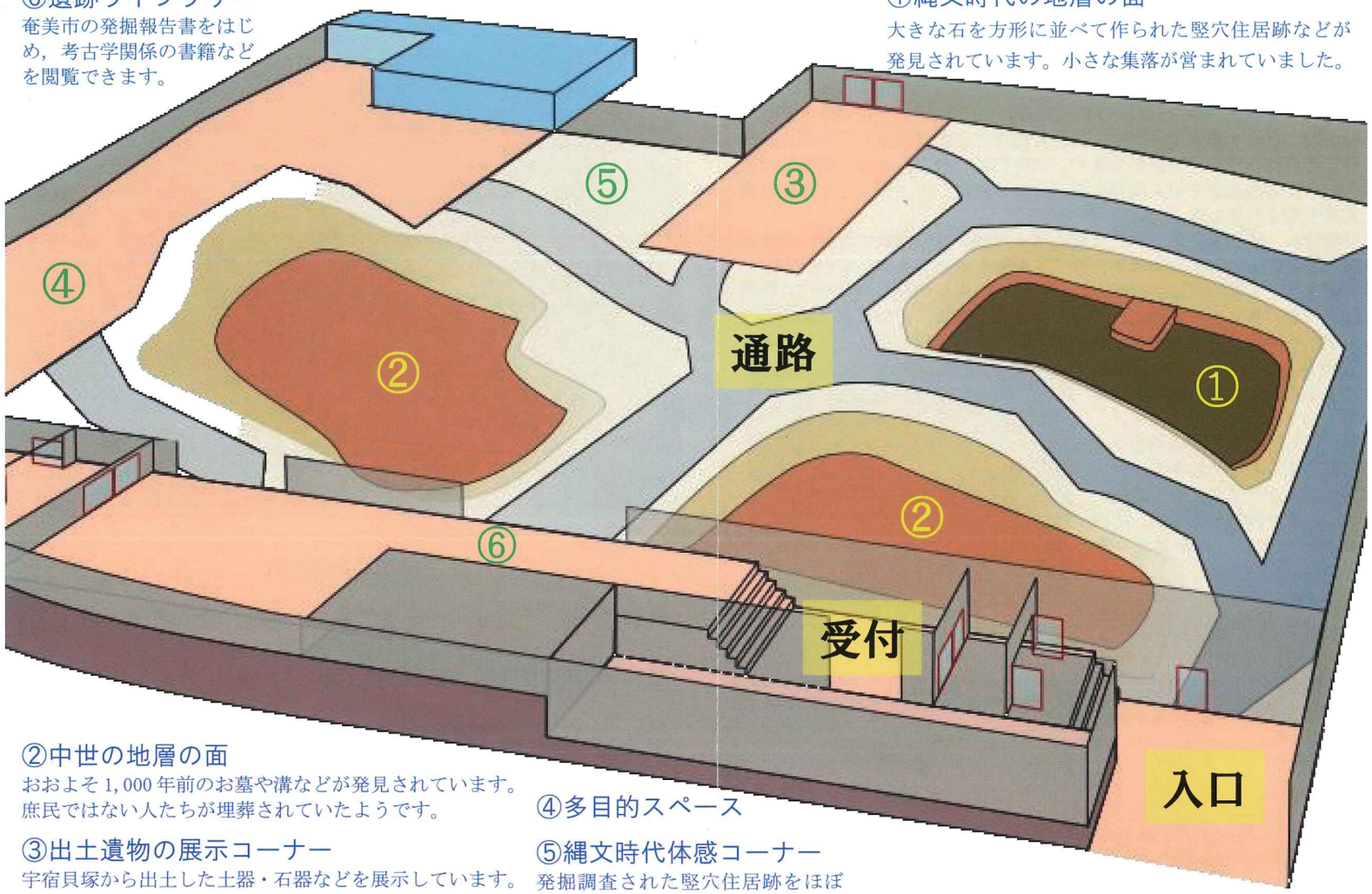


□宇宿貝塚の立地

奄美大島の海岸には，多数の砂丘が形成されています。砂丘には，新砂丘（約 2,000～3,000 年前から現在にかけて形成されている砂丘）と，その背後に形成されている古砂丘（約 6,000～7,000 年前頃に形成された砂丘）があります。

縄文時代の遺跡が中心となる宇宿貝塚は，標高約 13m の古砂丘上に位置しています。一方，宇宿貝塚よりも海側に位置する弥生時代並行期の宇宿港遺跡は，新砂丘上に位置しています。

奄美市笠利町の東海岸は，新砂丘と古砂丘が二列に並んでいる状態が観察できます。

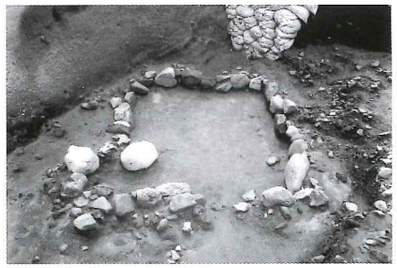


□宇宿貝塚の学術的意義

米軍占領統治から日本復帰を果たした薩南諸島（南西諸島の鹿児島県側島嶼）において，先史時代の様子を確認するために，宇宿貝塚の発掘調査が行われました。

縄文時代の文化層の発掘調査では，上層から無文の土器群が出土し，下層から有文の土器群が出土する事実が明らかとなり，それぞれ「宇宿上層式土器」，「宇宿下層式土器」と命名されました。この「宇宿下層式土器」の中心となる一群には，南九州の縄文時代後期土器である「市来式土器」が一緒に出土したので，縄文時代後期に位置づけられる事実が明らかになりました。土器は，遺跡の年代研究を行う際に重要な手がかりとなる資料です。宇宿貝塚の発掘調査により，奄美群島の縄文土器の年代的理解の大枠を確認することができました。

また「宇宿上層式土器」の時期には，大型礫で囲まれた方形の竪穴住居跡（縄文時代晩期～弥生時代前期）が複数確認され，人びとが集落を形成して暮らしていた様子が明らかになったことも，当時の暮らしを知る上で大変重要な発見でした。土器以外にも，石器や骨角器，貝製品等の豊富な遺物が出土して，当時の暮らしの様子を教えてくれます。



□宇宿貝塚の縄文時代

縄文時代に入ると，氷河期が終わり，温暖な気候になります。北海道から沖縄諸島に至るまで，日本列島に縄文文化が花開きました。縄文時代の人びとは，山・川・海で食料となる動物や魚など，そして植物を採りながら，それぞれの地域における自然環境を利用して巧みに暮らしていました。

宇宿貝塚でも，最も気候が温暖化した縄文時代前期頃から人びとが暮らしはじめ，縄文時代晩期になると，集落を営むようになり，遺跡前方に広がる海で魚貝類を，背後の山地でイノシシを獲り，シイの実などを採集して食べ，定住的な生活を送っていました。

そうした安定的な暮らしは，イノシシの骨による骨角器やオオツタノハ・サラサバテイラ・ウミギクガイなどを素材とした貝製品など，独特な装飾品の発達をもたらしました。宇宿貝塚の発掘調査により，南九州の縄文時代後期土器である「市来式土器」の破片や黒曜石などが発見され，南九州との交流も明らかになりました。

□宇宿貝塚の中世

11 世紀後半～12 世紀前半は，南西諸島の社会が，大きな変化を迎えます。

まず喜界島では，掘立柱建物跡や墓地が多数確認された「城久遺跡」が最盛期を迎え，本土産の土師器・須恵器・滑石製石鍋・布目圧痕文土器（製塩土器），舶載品の白磁・青磁・高麗無釉陶器・高麗青磁などが大量出土し，九州から大規模な移住者が来た様子がうかがえます。同時期に，徳之島では，韓半島の高麗無釉陶器の技術的系譜を引く陶質土器（カムィヤキ）が「カムィヤキ陶器窯跡」で大量生産されました。

宇宿貝塚でも，滑石製石鍋・布目圧痕土器・玉縁口縁白磁碗・青磁・須恵器などの搬入遺物が出土しているほか，カムィヤキも多数発見されています。V 字溝で区画された空間に墓地が形成されています。発見当初，弥生時代に位置づけられていたガラス玉が副葬された母子埋葬の墓壙は，その後の発掘調査成果から，中世の時期であることがわかりました。宇宿貝塚の東側に位置するダンベ山遺跡からも中世の墓壙群が確認されているので，この一帯が墓地として利用されていたと思われます。

こうした奄美群島における動態が，沖縄諸島に波及して，いわゆる「グスク時代」が始まるのです。稲作農耕が開始され，鉄器が普及しはじめ，南西諸島で政治的社会の形成が急速に進んでいきます。

幼児の埋葬墓に副葬されたカムィヤキ

□奄美の時代区分

日本歴史	歴史区分	奄美の時代区分	「名瀬市誌」時代区分	沖縄の時代区分
旧石器時代	先史	旧石器時代	奄美世	旧石器時代
縄文時代	先史	縄文時代	奄美世	貝塚時代前期
弥生時代	先史	弥生時代並行期	奄美世	貝塚時代後期
古墳時代	古代	古墳時代並行期	奄美世	貝塚時代後期
奈良時代	古代	古代並行期	奄美世	貝塚時代後期
平安時代	古代	古代並行期	奄美世	貝塚時代後期
鎌倉時代	中世	中世	アジ世	グスク時代
室町時代	中世	琉球国統治時代	那覇世	琉球王国時代
安土桃山時代	中世	琉球国統治時代	那覇世	琉球王国時代
江戸時代	近世	薩摩藩統治時代	大和世	琉球王国時代
明治時代	近代	明治時代		明治時代
大正時代	近代	大正時代		大正時代
昭和時代	近代	昭和時代		昭和時代
昭和時代	現代	米軍占領統治時代	アメリカ世	米軍占領統治時代
昭和時代	現代	昭和時代		昭和時代
平成時代	現代	平成時代		平成時代
令和時代	現代	令和時代		令和時代

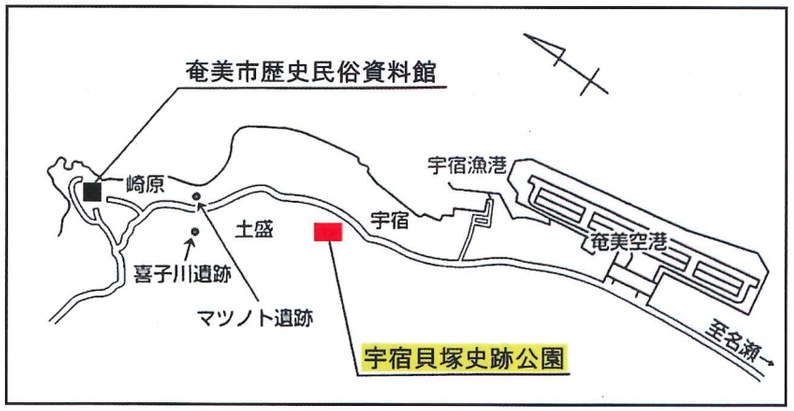
ご利用案内

■開館時間　午前９時～午後５時（入館は午後４時30分まで）

■休 館 日　月曜日・祝祭日の翌日・12 月 28 日～１月４日

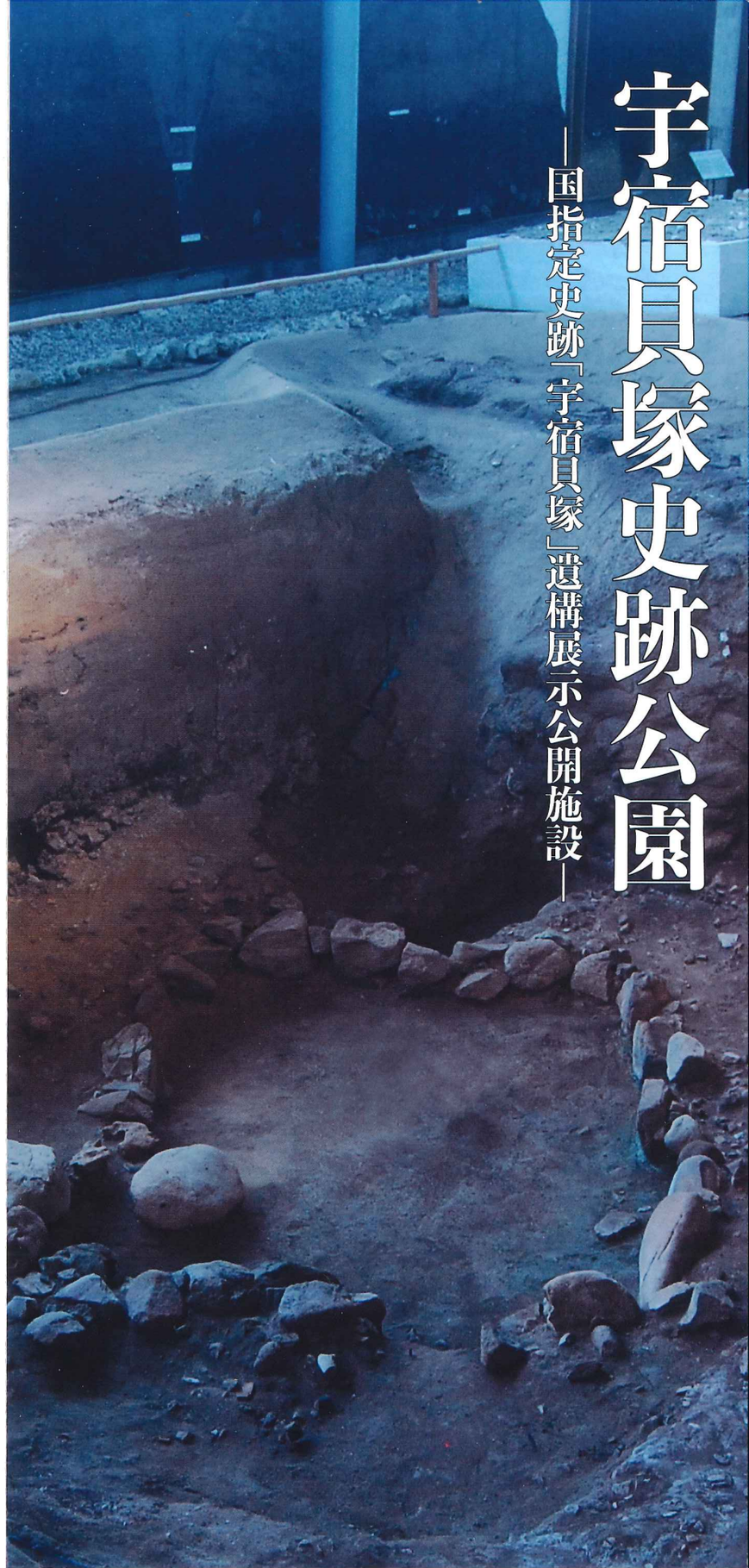
■入 館 料　一般 200 円/大学・高校生100 円/小・中学生 50 円
歴史民俗資料館との共通券 一般のみ 310 円

■アクセス　奄美空港より車で５分/徒歩 30 分
名瀬市街地より車でおよそ 50 分
「宇宿バス局前」停留所より徒歩５分
歴史民俗資料館より車で５分/徒歩 30 分



宇宿貝塚史跡公園

〒894－0501 鹿児島県奄美市笠利町大字宇宿大籠 2301
電話 0997－63－0054



宇宿貝塚史跡公園

―国指定史跡「宇宿貝塚」遺構展示公開施設―